

番号・課題名	2. トウキョウ X 指定飼料の改善と肥育試験 ～指定飼料は進化しています～
所属・氏名	環境畜産部 ○伊藤米人（現 応用技術部）・小野 恵・鈴木亜由美 協力：高品質系統豚生産出荷組合

〔目的〕

TOKYO Xの生産においては、肥育用の飼料としてトウキョウ X 指定飼料を給与している。当初の指定飼料はTDN70.9%のマッシュであったが、発育や嗜好性が悪い等の問題点があり、TDN70.9%のペレットも追加した。しかし、ペレットでは飼養成績は改善されたが、一部農家で枝肉評価において脂肪の「のり」が悪いことが指摘されてきた。そこで、これらの問題点を解決するため、生産出荷組合として新たにTDN72.6%のマッシュも追加する方向で検討することとし、当场では3種類の飼料について肥育試験を行った。

〔方法〕

1. 試験区はTDN70.9%マッシュ（TDN70M）区、TDN70.9%ペレット（TDN70P）区およびTDN72.6%マッシュ（TDN72M）区とし、供試豚は各々の区に去勢雄2頭、雌2頭の計4頭を用いた。
2. 肥育体重は、40～115kgを基準とした。
3. 調査項目は、飼養調査として一日平均増体重と飼料要求率、枝肉調査として産肉能力検定によると体調査と脂肪・骨・肉の割合および枝肉の評価とした。

〔結果〕

1. 飼養成績
  - 1) 一日平均増体重と飼料要求率は、TDN70P区はTDN70M区とTDN72M区より良く（ $P < 0.05$ ）、TDN70M区とTDN72M区はほぼ同様であった（表1）。
2. 枝肉成績
  - 1) と体成績では、と体長はTDN70M区が他の2区より長い傾向であった（表2）。
  - 2) 背脂肪の厚さの平均では、TDN70P区が他の2区より厚く（ $P < 0.05$ ）、TDN70M区とTDN72M区はほぼ同様であった（図1）。
  - 3) 肉・骨・脂肪の分離成績では、TDN70P区は他の2区より肉量が少なく、脂肪量が多かった（ $P < 0.05$ ）。TDN70M区とTDN72M区はほぼ同様であった（図2）。
  - 4) 枝肉評価では、TDN70M区とTDN72M区はランク1が100%（4/4）であり、TDN70P区はランク1が25%（1/4）、ランク2が75%（3/4）であった。ランク2の3頭は枝肉重量が大きすぎることであった。

〔考察〕

以上の結果より、TDN70M区とTDN72M区は飼養成績、枝肉成績ともほぼ同様であり、TDN70P区は飼養成績で他の2区より良かった。一方、農家においては、TDN70%ペレット区は脂肪の「しまり」が良くない農家があること、TDN72%マッシュ区は飼養成績、枝肉成績が改善された農家が多いことが報告された。また、枝肉評価サイドでは発育が良すぎる豚や肉量が多すぎる豚は肉質が悪いという見方をしている。これらのことを勘案して、生産出荷組合としてはTDN72Mを指定飼料とした。

表1. 飼養成績

試験区	開始時	終了時体重 (kg)	と畜日齢 (日)	肥育日数 (日)	一日平均 増体重 (g)	飼料量 (kg)	飼料要求 率	表2. と体成績	
	体重 (kg)							試験区	枝肉
TDN70M	41.2±4.1	114.7±4.5	173.8±7.2	87.8±7.2	843.9±85.7	334.3	4.54	TDN70M	72.8
TDN70P	41.3±4.2	123.8±1.4	172.0±7.7	86.0±8.1	966.1±77.0	308.1	3.73	TDN70P	81.9

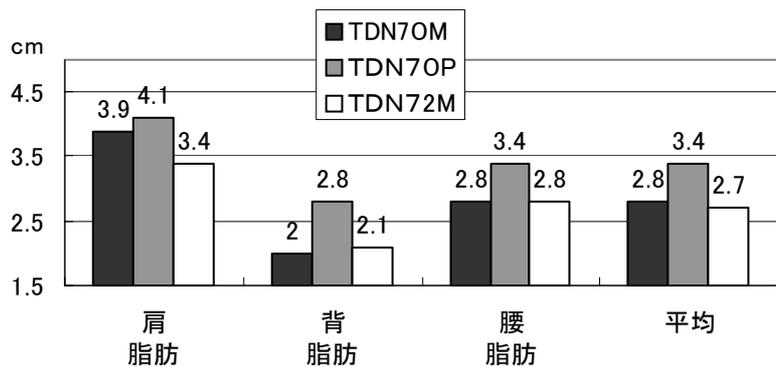


図1.背脂肪の厚さ

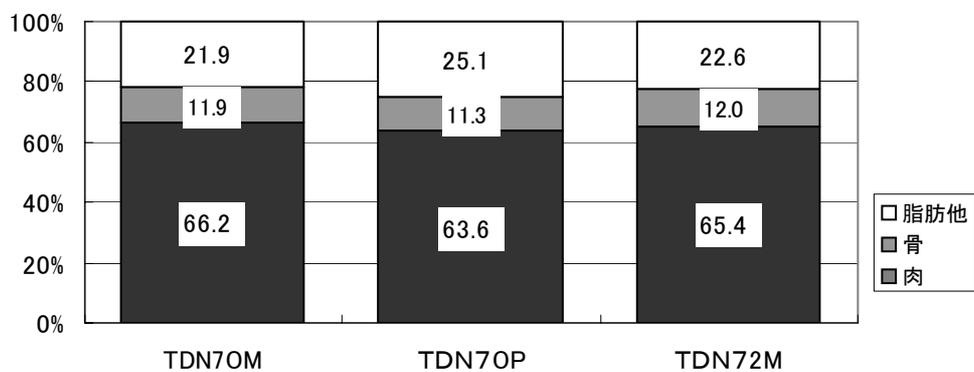


図2.肉、骨、脂肪他の比率